



富田の丘から

校章の由来 (昭和61年制定 作者 板橋新四郎氏)

三枚の「榎(えのき)」の葉は、本校の教育目標の三本柱「知」「徳」「体」を象徴している。また、左右の黒い部分は、はるかに仰ぎ見る磐梯山、安達太良山を象徴し、学力と体力の向上を表しています。

「榎」の由来 富田郷土誌によると、「富田」の地名は、田穀豊穰を願って命名され、地域の人々は農業神として日吉神社を建立し、信仰してきました。その御神木が「榎」です。校章のシンボルとして「榎」の葉を配したのは、富田の地名に由来したものです。

平成27年度がスタートしました！

富田中学校の平成27年度がスタートしました。新年度の準備が、4月1日から3日までの3日間しかなく、新入生が郡山市内の中学校で最も多かったこともあり、教室の配置や入学式の準備にと、大変忙しいスタートとなりました。しかし、先生方と3年生、2年生による心のこもった準備により、245名を迎えた入学式、そして始業式が行われました。有り難いことです。3年生192名、2年生215名、合計652名、教職員47名の平成27年度の富田中学校をよろしくお祈りします。

■始業式の話 4月6日

◆創立30周年の伝統に誇りを持つ。

富田中学校は、今年度創立30周年を迎えます。「富田」の地名は、豊かに水田に稲が実ることを願って付けられ、農業の神として日吉神社を建立しました。神社の御神木が「榎」であり、中学校の校章には「榎」の葉が配されています。このように私たちの学校は地域の思いが込められ、創立し30周年を迎えたのです。さらに今年度の入学生は245名となり、郡山市内でも有数の規模の大きい学校になろうとしています。私たちは、創立30周年と大規模校に向かう節目となる時期と一緒に時間を過ごし、新たな伝統を築いていく役割があります。

◆「再生願望」

皆さんは「再生願望」という言葉を知っていますか。誰でも、もう一度やり直してみたい、こんなことができるようになりたいと願うものです。その思いを確かにするのが今日の始業式です。中学生の時期は、やり直しや再出発がいくらでも出来る時期です。失敗を恐れず、最善を尽くし自分の夢の実現に挑戦してください。「私はだめだ」とか「どうせ」という言葉を聞くことがあります。「自分の夢を壊すのは他の誰でもなく、自分自身」です。

3年生の皆さん、1年後の3月の卒業式に臨む自分の姿を想像して下さい。2年生の皆さん、先輩と呼ばれる実力をつけ1年後最上級生なり伝統を引き継ぐようになる自分の姿を想像して下さい。その想像した姿を実現するために、1日1日を積み重ねていきましょう。

◆一人一人が輝く富田中学校

大勢の中に埋もれることなく、一人一人が輝く富田中学校をつくっていくことを期待して式辞とします。

※この校長室通信は、富田中学校長佐藤卓^{たかひろ}弘が保護者の皆様に向けて、本校の情報や教育活動、生徒の様子などをお伝えしたいと思っています。また、私の教育に対する考え方や経験をお伝えしたいと思っています。なお、発行は不定期となりますが、よろしくお祈りします。